

# 市川学園山岳部報 13 その1

## 大菩薩峠～滝子山縦走 (前半)

初日

大内弦樹

### 1. 自宅～塩山

4月29日、5:00に起きたつもりが時計が進んでいたため結果的に4:40ぐらいに目が覚めてしまった。一通り準備も終えてやることもないので予定よりも家を10分ほど早く出た。今回は高1部員があまり参加できなかったためJRメンバーは山田君(中3)と宮城(高1)だけだった。地元駅の下総中山の東京方面ホームの先頭で待つこと10分弱、やっと約束の電車が来て宮城と合流した。車内はこの時間帯にしては意外と人が多い。そのほとんどは出勤途中のサラリーマンのおっちゃん達だったので、その中で大きなザックを背負ってその上横にでかいロールマット(テント内で敷くマット)をぶら下げている僕らはかなり目立つだろうなあ……。もう一人のJRメンバーである山田君とは本八幡で合流し、全員で無事お茶の水まで到着。乗り換え時間が6,7分しかないのにトイレに行きたくなって少しあせった。なぜかいつもこういう時に限って腹の具合がおかしくなるが緊張のせいかな?これからは団体行動の際にはあらかじめ済ましておくようにしよう。なんとか間に合い6:55の中央線で7:20には新宿へ…なんて予定だったはずが行動食を買い足すのに寄り道をしてしまって集合場所に着いたのは7:28。まあ30分までの集合だからよしとするか。ところがここでハプニング発生!もう一人の中3部員である成田君が乗るはずの電車を一つ間違えて埼玉の方へ向かう電車に乗ってしまった。なんとか彼と連絡を取ることに成功し目的地への路線を外れる前に一本早い電車に乗っていた顧問の細谷先生と一緒に一足早く到着することができた。危機一髪!一方予定どおりの電車に乗った僕たちは8:54に塩山という古風な駅に着いた。古風といっても登山者もかなり居たので驚いた。ここで細谷先生や成田君と会った。

### 2. 塩山～大菩薩峠

ここから少しの間は道路が続いているのでタクシーを使ってある程度山を登った。高1が少ないと言っても参加メンバーは9人もいたので2台をレンタルすることになった。約1時間も山道を走ったせいもあって途中、現部長の神谷先輩が車酔いになりかけてしまった。目的地であり登山の出発地点でもある“福ちゃん荘”なる場所に着いたのは9:40頃だった。山のふもとを少し登ったところであってこれまた古風な店が3,4軒続いていた。部長の酔いも落ち着いたところで登山開始。なんでも僕の親も大菩薩嶺まで登ったことがあるらしく、どんな山か楽しみにしていた。せまい道が続いた後、石がゴロゴロしている道を30分ぐらいかけて大菩薩峠へ到着した。風がかなり強かった。福ちゃん荘と同じように店がある他には『大菩薩峠』と書かれた木の板が立っておりかなり人が居た。

### 3. 大菩薩峠～湯ノ沢峠

ここまでの道のりは手ぶらで歩く中高年の人も多く、これといってきつい傾斜もなかったが、ここから尾根づたいに少しずつ人が減って傾斜も高くなってきた。それでも相変わらず風は強く吹き付けており、だんだんと汗をかいいた体が冷えたので上着を着込む人も増えた。石や岩でおおわれた尾根を歩くこと15分で熊沢山を通過しさらに10分で石丸峠へ、さらにその15分後の12:05には小金沢山まで一気に登ったところで10分ほどの休憩をはさんだ。みんなもあまり疲れた様子もなかった。

しかしここから山の中へ入って行くと道が荒れ始めた。小金沢山までさらに大きな岩がごつごつしている所が続き足が痛くなってきた。途中分岐ポイントで道を間違えて、来た

道をだいぶ戻った辺りから疲れが出たのかみんなのペースが下がり始め、2,3名列の後ろの方に下がっていく人もでてきた。最後の10分ほどで急な坂を上り終えた後、牛奥ノ雁ヶ腹摺山という長つたらしい山の分岐点の辺りで12:55から13:05ぐらいまで休憩した。それにしても暑い!まだ四月だというのにさっきまでの強い風はどこへ行ったのか急に暑くなった。2.0リットルあった水も1.2リットルぐらいになってしまった。ザックの重さも感じ始めた。出発の日の前日にジャンケンで負けて今夜のテント一式を持つハメになった宮城や部長は特に疲れているふうだった。でもあの2人は部の中でも特に体力があるので大丈夫だろう。

そこから川胡桃沢ノ頭という所までは特に急な傾斜が連続しており、僕も2～3回バランスを崩してつんのめりそうになった。

急な登りはこれで大体終わったが、ここから黒岳までの下りは足にきた。登山靴が新しかったせいか靴ずれが何ヶ所もできてしまった。ここからは少しペースを速めてみんなよりちょっと先に進んでみることにした。14時に黒岳について20分の休みをとった後は少しばかり平原が続いた。そして40分後の15時頃、今日の目的地、湯ノ沢峠に到着した。避難小屋もありちゃんとした所で、近くにテントを張れる場所を探していると、しばらく進んだ所に公衆トイレの前に良さそうな場所を見つけた。川にも近い良さそうな所だった。車が2台ほど止まっている所を見ると上がってくるための道路が反対側のふもとからのびているようだった。中にはバイクで来ているおじさんの集団もいて驚いた。テントを張り終えるとそのまますぐ夕食の準備にとりかかった。夕食はご飯を炊いて、そこに各自で持ち寄ったレトルトカレーをかける簡単メニューで、多少ご飯が堅かったがおいしく作れたと思う。明日は3:00に起床なので6:00にはもうみんな各自テントの中で寝る準備になった。僕も7:00頃には用意を終え寝袋にくるまった。明日はこの足の疲れがとれていけばいいのだが。

二日目

一木裕樹

### 4:00 湯ノ沢峠

大菩薩二日目・・・地面が硬すぎて、まったく寝られなかった。

今日は5:00前に出発し、ハマイバ峠に8:00滝子山に10:00初狩駅に13:00に到着予定。

4:30頃朝食。寿司太郎、みそ汁がメニュー。このみそ汁が寒さに利いてウマかった!! 食べ終わると日も出てきたし暖かくなってきた。頭につけていたヘッドライトをはずし、パッキング(荷物の整理)を行う。最後にテントを片し、予定通り4:55頃湯ノ沢峠出発!!

昨日来た分岐路を右に曲がり、早速ののぼり……。まだ5:00なので人はなかなかいない。登り終わるとくんだり。この部活はくだるのが異様に速い。だからくだりは1分くらいでおわり、大蔵高丸へののぼりとなった。早くも福田(高一)が死に始め、なんとか予定通り大蔵高丸に到着

### 5:20 大蔵高丸

いや～朝からなかなかキツイ登りだった。登り終わると大蔵高丸(1781m)に到着。景色がいい!富士山も見えた。天気がビミョ～だったのでうっすらだったけど・・・天気がいいときはくっきりきれいに見えるらしい。5:30出発。つぎは1時間で着くハマイバ丸。ここまでは200mほどくだるのだが、実はのぼったりくんだりが続くので200mくだるとかほとんど関係ない!

大蔵高丸のくだりをおりきるとまたものぼり、のぼりおわるとまたくだりとこんなのがずっと続いた。

### 6:05 ハマイバ丸

やっと着いたハマイバ丸。見晴らしは周りが木ばかりで全くない。ここらへんは大菩薩峠に比べてかなりマイナーなト

# 市川学園山岳部報 13 その2

コなので人にあつたのは2日目通算2人。ここにも誰もいない。一応ゴールデンウィークなんですけどね。

一番後ろの庵原先生が着いて、6:20ごろ出発。つぎは大谷ヶ丸(おおやんがまる)というトコで約1時間半後に到着予定。ピミョウなのぼりのあと傾斜のキツイくだり。するとまたのぼりという縦走の典型的なパターンなのだがせつかくのぼったのにまたくだるのか・・・という精神的にキツイ。が、7:00すぎになると体力的にもきつくなってきた。なんといつてもこの荷物がきつい。10<sup>\*</sup>は軽く超えているこの荷物のせいで、肩がとてつもなく痛い!

しかし、追い討ちをかけるように目の前にはキツイのぼりが待ち構えていた。太陽も昇ってきて暑くなってきた。みんな汗をだらだら垂らしながらエッサホイサとのぼって行くとやっと着いたみたい。

## 6:45 大谷ヶ丸

ついた瞬間にくい荷物を投げ捨てた。近くの大い一枚岩にごろ〜ん。見晴らしは微妙にはあるが木が邪魔でよく見えない。天気はいい。だから暑い。ホント誰もいない。さっき夫婦らしき2人とすれ違っただけで計4人。つぎは予定では滝子山なのだがやる気も体力も残り少なくなってきた高一組はこのままくだって、笹子駅に行くことを推奨。でもやはりここは予定通りという顧問中学生組とで別れた。10分間議論した結果、予定通り滝子山に向かうことに。7:10出発まずはくだり。くだりが終わると細い登山道に出た。目の前は結構高く見える滝子山。30分ほど平坦な道を歩くと、分岐路があり、滝子山方面はのぼりだった・・・。10分ほどのぼると暑くて重いということで10分間の休憩。大内(高一)の水が底を尽きたらしく、一木(高一)が水をあげた。そんなことをしていると下からおじさんが大汗をかいて登って来た。また出発。暑い中ダラダラ登り、約30分後滝子山に到着。

## 8:15 滝子山

山頂は暑い!行動食のチョコレートやお茶やらを食べたり飲んだりしてたそがれた。20分の大休憩を終え出発。

これからは下り一本。先ほども言ったようにこの部活は下るのが異様に速いし、それが長く続く。

ダァ〜と下りを2時間ほど下った。一回休憩をはさみさらに30分程行くと登山道が沢に沿ってきた。暑い中も涼しくなってきた。沢沿いのせいか地面が悪かったが、いい感じだった。1時間後やっと林道にでた。二日で10<sup>\*</sup>以上の山道を歩いてきた・・・

ここからは20分ほどで初狩駅に着く。鯉のぼりがあちこちで上がっていた。中央自動車道の下をくぐり、5分後初狩駅前のローソンに到着。

## 11:20 初狩駅前ローソン

現地集合現地解散が原則のこの山岳部はここで解散。先生たちは足早に初狩駅に。生徒はローソンでジュースやらアイスを買って、11:50の電車で大月へ。11:55大月に到着。神谷部長(高三)がこのあと大月で東京行きがある。と言われたので、それを信用して降りたが次の電車は高尾行き・・・。ア〜。ウソだったらしい・・・。というようなトラブルもあったが無事高尾に着き、乗り換え、御茶ノ水に着き、乗り換え、錦糸町に到着。宮城(高一)は快速に乗り換え。一木はここからバス。大内、福田はこのまま本八幡までといことで生徒組みも解散した。

とりあえず疲れたこの二日間。一番印象的だったのは大蔵高丸からの富士山。この富士山にもしかしたら夏休み中に登るかもしれない。そのためには体力的にぜんぜんダメだということがわかった。

次の泊まりは北アルプスの立山。3000<sup>\*</sup>のさらにキツイ山行になりそう。そのためにはもっと体力をつけ、知識もつけないといけない。

## 箱根明神岳

2005年12月

はじめまして。鈴木将太です。もうすぐ入部一周年になります。好きな歌手は宇多田ヒカルです。部報を書くのは初めてで勝手も何もわからないうえに、もともと文才がない(でも文系志望)のでどんな文章ができるか書いている本人も不安ですが、無い知恵を搾り出し必死こいて書き上げるので、最後まで読んでやってください。

さて、我が人生において初の部報のお題は明神ヶ岳(1169m)。神奈川県の小田原市箱根にあり、ちかくには前に所属していたワングル同好会のときに行った金時山や箱根彫刻の森美術館があります。正直いまでも箱根の位置がわかりません。

## AM6:30 新宿駅着

山行での遅刻は厳禁です。まあ、なんでもそうですが。基本最悪でも15分前には集合場所にいるというのが僕の目標です。あくまで目標ですが。新宿は都会だな〜♪

## AM7:01 新宿駅発

小田急に乗車。そして出発。みなさんいろいろな話をしました。眠かったです。

## AM8:51 箱根湯本着

温泉の町に到着。そろそろ町が動き始めそうな時間帯につきました。これからバスに揺られて仙石までいきます。七か七30分以上もなにやってたっけ?

## AM9:35 箱根湯本発

## AM9:27 仙石着

本当に寒いです。あれま。少しだけ雪が積もってるよ。テンション上がっちゃいますね〜♪左右に竹やぶが壁のようにそびえたってます。夏じゃなくてよかった(かなり蚊に刺されやすい体質です)。

## AM9:35 仙石発

## AM9:50 矢倉沢峠着

分かれ道です。西に行けば金時山。東に行けば明神ヶ岳。ここだけはワングル時代の記憶が残ってました。ここからは、竹やぶに変わり背の高い雑草に左右を囲まれ、あいかわらず地面には雪。見えるのは空だけ。

## AM9:58 矢倉沢峠発

## AM10:50 火打石岳着

やっと見晴らしもよくなってきたら、風が寒くて鼻が赤い。刺すように寒いつてこのことでは?防寒しておいてよかった・・・

## AM10:55 火打石岳発

## AM11:38 明神ヶ岳着

頂上は殺風景。幸い天気もよく空がきれいでした。崖から風がかけのぼってきていました。この風さっきのよりもかなり冷たいんですよ。凍死しそう♪(おおげさ)。風の当たらないところで食事。愛母弁当です。

## PM000 明神ヶ岳発

## PM0:35 鞍部着

やっぱり下りの方が疲れますね。足が無理やり動かされてるかんじ。そろそろ車の音が聞こえ出しました。

## PM0:40 鞍部発

## PM1:18 宮城野着

# 市川学園山岳部報 13 その3

下界着！おつかれさまです。でも帰るまでが山行ですよ？

PM148 強羅発

帰りの電車の中ではみなさん静かです。特にこれといった会話もなし。それぞれの世界に入っておられます。

PM222 塔ノ沢着

PM310 箱根湯本着

ここで解散。電車が来るまで観光していました。まあ、大多数は温泉に入ってたんですが、僕はそんな気分でもなかったのので一通り駅前商店街を見た後コンビニで立ち読みをしていました。いい子はまねしないように。その後、温泉組が観光したいということなので先に帰りました。

PM448 箱根湯本発

PM619 新宿着

お疲れ様でした。やっぱ新宿は都会ですね♪

う～ん。こんなものでしょうか？なんせ行ったのが半年以上前のことなんで細かいとことかは覚えてません。書くのをサボってたわけではないので誤解しないように。次回はもっと覚えてるときに書きたいのでよろしくをお願いします。

あ、もうすぐ凱旋門賞発走だ！

## 山行記録 春山合宿

3月26日春山合宿出発の日。8:40浅草駅改札に集合となっていたので、自分は何人かの仲間と本八幡に集合した。前々日まで、部活仲間であり友達の佐藤の家に泊まっていたので、準備は前日に超がつくほど急ピッチで行った。そのこともあって山行に行く前から疲れていた。(本当は友達のうちで夜更かしをしていたからだが・・・)まあ、浅草に行くまでの40分ほどはその話題で終始盛り上がった。しかし、自分にしてみれば今この瞬間にすでに疲れていることはただの笑い話ではすまなかった。なぜなら自分はまだ山人(ヤマンチュ)になってまもないし、春山と言っても、そこは東京ではない、まだ雪深い会津である。つまり、体力的には不安が残る、というより、まったく自信が無い！！先輩曰く「去年は最悪だったなあ～。途中で吹雪いちゃって。ひざ上まで雪に埋もれて、ラッセル(雪を掻き分けて進む事)なんてまともに出来ないから、ぜんぜん進めなくてさあ～！！」なので、ぶっちゃけて行きたくなかったのだが、市川学園山岳部員たる者この会津の春山は避けては通れない、いわば登竜門なのだ。そんなこんなで、浅草に着いた。まあ、自慢ではないが、遅刻はしない方なので、(とういうかイヤなので、遅刻が。本八幡集合時間も無理を言ってかなり早めにしてもらった。)誰もまだ居ないかな～と思っていたのに、顧問の北川先生、庵原先生、部長の神谷先輩、同級生の一木、宮城、中川、一つ下の山田、成田、OBの原川先輩(この先輩大学でも登山をしていて、その恐ろしい体験談を聞くのを皆、密かな楽しみにしていた。)、石毛先輩(元来山岳部ではないのだが、白神自然体験学習の常連でぶっちゃけ自分よりアウトドア経験豊富なので、特別に来てもらうことにした。)つまり、本八幡で集合した、佐藤、大内、吉田、私以外は全員そろっていた。9:10発の快速会津東武日光行きの定刻までは少し時間があつた。しかしそれまでにしなくてはならない事が少しあつた。片道2540円もする切符を買い、電車内で摂る昼食を買って、戻ってきた時には、定刻の時間が近いので、ホームに入ることになった。改札口を抜け、振り向く、これで都会とはしばらくの間おさらばだ・・・その時、神谷部長が改札を通らないのに気がついた。通らないば

かりか、持っていればゆうに15キロを超えるはずの装備の入ったザックを持っていない。「部長行けなくなったんですか？」と聞くと、「そうだ」と部長、どうやら蕁麻疹が出てしまったらしい。出発前にごたごたと、あつたけれど無事にこれから待っているであろう地獄のような日々に向かって、電車は定刻どおりに発車した。そして電車に揺られる事約3時間、だいたい前々日の寝不足を回復するために爆睡していた。途中、昼食を摂っているとき山田が60代後半のおじいさんと日本の未来について熱く語り合う、というシーンがあつたりもしたが、電車は12:20に会津高原尾瀬口に到着した。そして、ここからはバスでの移動である。それから1時間後森戸に到着した。感想は・・・「なーんだたいしたことないじゃん！！」なぜならそこには少しばかりの雪はあるけれども、膝頭までなんてとんでもない。アスファルトがむき出しである。先輩から聞いた話では、これから2日間寝泊りするボロ小屋の通称OB小屋は「屋根まで深い雪に覆われていて、掘り起こすのに1時間はかかる！」というのだが・・・。疑念を抱きつつOB小屋をめざし歩き始めた。庵原先生に「雪なんか全然ないじゃないですか。」と言うと、「ここは住宅地だからな。この道をちょっと行けば雪道になるよ。」と言われた。なるほどたしかに田舎ではあるが民家がちらほらある。それから10分後、見えた。白銀の道とは程遠い地獄の道。皆いっせいに悲鳴を上げた。自分には意味不明だった。どうやら例年に比べて除雪車が仕事をさぼつたらしい。なにはともあれ、もう逃げられない。ここからは沈まないための<わかん>を足につけてゆく。歩き始めて数分もうバテた。<わかん>を足につけているため歩きにくく、なにより重い！！雪は足首までしか飲み込まないがそれでも隊列から遅れを取り出した。北川先生が「疲れても足を止めるな。止めれば余計に疲れる。」と言ったので忠実にその掟を守ろうとしたがダメだった。どうしても足が止まってしまう。最後は友達の精神的助けと気力だけで歩ききった。やっとなつたあ～！と、思ったら小屋を見て驚愕した。本当に屋根まで雪に埋もれている。それから1時間、小屋救出班と水場確保班に分かれてそれぞれの仕事に取りかかる。正直水場確保にはまわされずに済んだのでほっとした。なぜなら水場確保は雪の下で滾々と流れているはずの川を掘り起こすので、毎回その凍えるような水の餌食になる者が後を絶たないのだ！！何とか窓から中に入るための突破口を開き中に入るとまた愕然！！！！秋にはだいじょぶかな～と思われていた弱々しい壁は、案の定凄まじい雪の重み耐え切れなかったのか、少し剥がれ雪が見えている。次の秋合宿は皆で日曜大工大会だな・・・。やっとなつた水場確保が終わり食事の準備にとりかかる。1日目の食料計画はキムチ鍋だ。食べ始める頃にはヘッドランプなしでは何も見えないほど暗く、陰気くさ～い食事が終わり、あしたの山行計画を確認し、1日目終了した。まだ地獄は始まったばかりである。

翌日の27日。今日は最大の目的である黒岩山山頂(1438m)をめざす。朝食の準備が始まる。メニューは、定番の(山行の朝ごはんはこれしか有りません！！)ししゃも、味噌汁、ふりかけご飯だった。食べ終わるとすぐに、準備を始める。下手すると、自分の背より大きくなる馬鹿でかいザックを背負って行くわけには行かないので、必要なものを小さなリュックに詰める。その後外に出て<わかん>をつけて、出発する。天気は快晴、気温は・・・かなり低い！へたすると氷点下。しかし、ゴアテックス(カッパの通称の事だが、普通のとは違い、水は絶対に通さないが汗は通し防寒着としてもかなり使える。という矛盾だらけの馬鹿高いもの。)を着ていたので我慢できないほどではない。歩き始めて、改めて確認「雪は大っ嫌いだ！！！！！！」ひーひーは一言いながらまずは学園コルをめざす。一回目の休憩でコルって何ですか？と、北川先生に聞くと、「コルというのは、鞍部」といって、へこんでいるところだ。」と教えてくれた。学園

# 市川学園山岳部報 13 その4

と名がついているのは、単にそこに名前が付いていなかったかららしい。(ようは勝手に付けちゃったってことじゃん!!) 地図で現在位置を確認し、出発する。かなりキツイ登りが続く。ジグザグに登ると楽しいが、あまり変わらない気がする。やっとこさ登り切るとそこが学園コルだったそこで少し長めの休憩をとる。まわりを眺めると前方にはこれまたきつう〜い登りが! 後ろには・・・絶景があった。まさに今までの疲れがぶっ飛ぶような・・・ってんなわけあるかい!! 確かに絶景だがそれでもこの疲れは癒えない。そんな事を思っていると信じられない事が聞こえてきた。「ここからは二人でパーティーを組んで登っていこう。雪崩の可能性があるので・・・。」は〜!? あいた口がふさがらない。パーティーを組む理由は一つ、一人が雪崩に巻き込まれて死んでも、もう一人が生きていればそのチーム全体の生存率はグンと上がるというわけだ。まず、最初の2人がトランシーバーを持って以上があれば連絡をとることにした。一組目、二組目が無事に登りきった。ついに自分の順番が回ってきた。あきらめて登ることにした。静かに、ゆっくり登っていく・・・。ふと後ろを見る。げっ!! 後ろの組が追いついてきている。そんなに遅かった!? 「おせーよ。おめーら。」後ろの組の奴らが言った。イヤイヤちがうよね。ここはゆっくりなんでしょ!? しかし、そんな事知るか〜とでも言うようにズカズカ足を踏み鳴らしながら奴らがやってきた。いや〜やめてえ〜。まじでホントやめて雪崩があ〜!! 結局4人で登り切った。これから、保城峠に向かう。まだまだ辛く厳しい道のりが続く。途中少しなだらかな場所で体力回復を図りながらゆっくり歩いていると・・・あ、あれは!? なんと、銃を担いだ男が2人歩いてきた。警察〜ケイサツの方〜。いやいや猟師だから。ホントにいるのか。北川先生が猟師の方とお話しをしている間、しげしげと猟銃を眺めていた。「お〜い、いくぞ〜」と呼ぶ声が聞こえハッとわれに返った。猟師さんに別れを告げ、雪の坂道を登り始めた、しばらくすると開けた場所に出た。「ここが保城峠だ」でも、もたもたしてはいられない。次は黒岩山にアタックする。腹減った〜とか雑念を抱いていると生と死の境界を見ることになる。足を滑らせ滑落してしまった。1度見てしまうと怖くて足が進まない。しかし、ここでやめるわけにはいかないので、進む事にする。何度か雪に足をとられ滑落しそうになった。だが、なんとか登頂する事が出来た。見渡すと白く雪をまとった山・山・山。山しかないのか!? う〜ん確かに一見山しかない。しかし、それ以上にあるのは山のように積もった疲労と、達成感。これがあるから山は止められないんですなあ〜!! しばし、自分とこの気持ちに酔いしれる。そろそろ下山しなければならぬ。下山を開始するとみんな競うように滑落(わざと)を始める。いやいや、あなた達死にたいの!? 一歩間違えば停部もんだよ!! 庵原先生何とか言ってくださいよ・・・ってあなたもですかあ!? え? わざとじゃない? な〜んだ・・・なんか楽しそ〜だなあ〜。俺もやろ〜!! ずざざざざざざ・・・あぶな〜いぞいて〜! 危機一髪。部員と衝突寸前で回避。もういいや・・・そこからはおとなしく降りていった。そして、保城峠まで戻ってきて昼食。ロールパンにジャムをつけ食す。食事中に先生に聞く。「これからも先下りだけですか?」「そうだ」と先生。よおおし!! 力が湧いてきたあ〜! これから楽だとわかるとこれだ。人間って不思議だ。昼食を終え再び下山開始。たらたら友達3人と歩いていると前方と離れていった。しばらくするとまったく見えなくなった。こ、これはまさか・・・いやいやそんな事は無い! 管・・・庵原先生がまだ後ろにいるはずだ。しかも一本道だし・・・しかし、いくらピッチを上げてても前が見えてこない。正直焦った一本道だったよね・・・(汗) 更にピッチを上げるが見えてこない!! もはや認めるしかあるまい・・・遭難しました!! (泣) とそのとき・・・OB小屋が見えた。な〜んだ少し遅れていただけなのか。よかった。OB小屋で休んでいるとみんな(おもに高1)がそ

そくさと外に出る用意を始めた。なに? なにがはじまるんですかあ〜??? すると1人が「雪洞を作りに行くぞッ」は!? ですよ。疲れてるつつ〜の。でも恒例行事だというのでしぶしぶ外に出る。寒っ!! 雪洞を掘始めて数分、飽きたので、みんなで小屋にひっこむことにした。一人をのこして・・・。しばらくすると一人残っていた石毛先輩が戻ってきた。雪洞が出来たというのだ。見に行くと人一人が寝るほどの空間が出来ていた。感心しながら中を覗いていると信じられない言葉が聞こえた。「おれ、ここで寝る」!? それは凍死するんじゃ・・・でも本人は大真面目、先生もOKを出しシュラフ(寝袋)で寝ることになった。夜も更けてきたので夕食の準備に取りかかる。今夜は、すき焼きだ。しかし、出来た物は、すき焼きというよりはすき焼き味の肉スープといった感じだった。しかし、空腹だったのでおいしく食べることが出来た。その後今日の山行の反省会を開き、山で歌う歌(♪〜俺が死んだら母に伝えてくれ、安らかだったと・・・)を何曲か歌った。明日は早いので早めに布団に入った。(石毛先輩は雪洞で)

翌28日、いつもの朝ごはんをかつ込みバス停に向かって出発。この日は調子が良かったので、全行程の3分の1は走った。最後の数百メートルはほぼ全力疾走だった。バス停でバスに乗り込むと、今までの疲れがどっと出てすぐに寝てしまった。おそらく帰りのほとんどは寝ていた。東京に着き解散。ここからは各々家に帰っていった。

「春の会津」これからも山岳部の登竜門である。

新人よりひと言

4年9組 永田 岳

新入部員とはいえ、5、6年の部員がないために、すでに最年長組の仲間入りをしたことに、若干の動揺を隠せない今日この頃です。

それはともかく、山に登るといのは正直きついことでもありますし、時々、登る意味も分からなくなりますが、それでも山に入ってしまうということは、山には何か、そういう懸念を払拭するほどの大きな魅力があるんでしょう。これからの私の三年間の目標の一つとして、この魅力が一体、どんなものかを解き明かしていくつもりです。